

認知症による生活上の困難と私たちにできること

あのおいしいちゃんレジのところで困っているみたいだなあ

- 買うはずのものを忘れ、いつも同じ物を買ってしまう。
- 金種がわからず、少額でもれを出す。
- お金を払わず持って帰ってしまう。

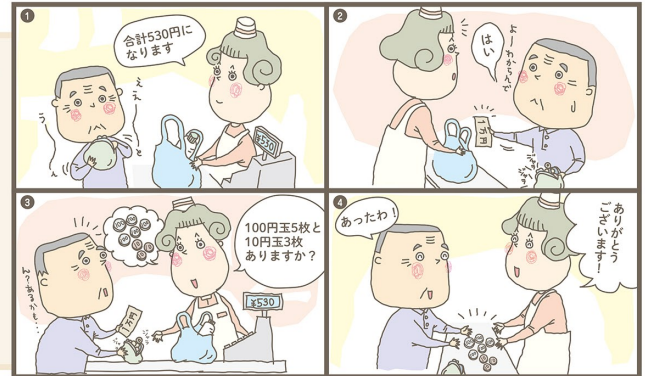
こんなときは?

馴染みの商店 ➡

- ・「昨日のほうれん草はおいしかった?今日はキャベツが安いですよ。」
- ・家族に連絡し、後で支払ってもらう。

スーパーなど ➡

- ・「530円なので、500円玉1つと10円玉3つお預かりします。」



あのやさしいあちゃん、何だか不安そうに歩いている。どうしたのかな?

- ちょっとしたこと(夜道、いつもの道が通行止めなど)で道がわからなくなる。
- 電車の切符が買えない、自動改札を通ることができない。
- 道に迷っても、人に聞くなどの対処ができない。

こんなときは?

駅員、近隣の方など ➡

- ・声かけ、見守り「どちらに行かれますか?」「お困りですか?」

地域の子どもたち ➡

- ・登下校中のあいさつ

必要に応じて、地域包括支援センター・警察・家族などに連絡

おいしいちゃんがごはんを食べたことも忘れてしまう...

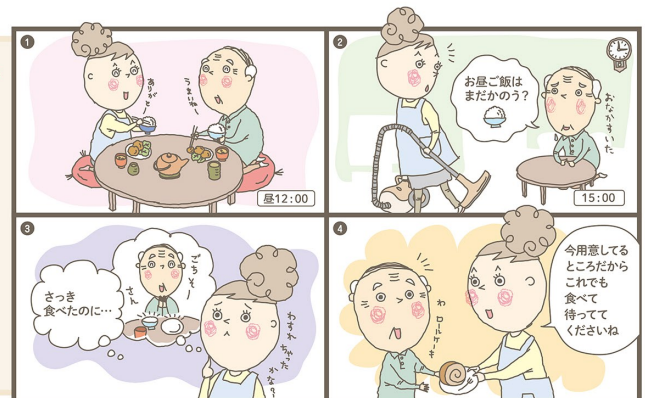
【食事の準備の例】

- 何を買ってきたか、用意した野菜は何に使うつもりだったかを忘れている。
- 味付けの途中で、どの調味料を入れたかわからなくなる。
- 時間配分がうまくいかない。味噌汁はできたが、魚は焦げて、煮物は塩辛い。

こんなときは?

家族 ➡

- ・「小松菜はおひたしだったよね。」
- ・「お魚はそろそろ焼けたかな?」



- いつも決まった金融機関等に訪れる。
- 頻繁な金銭の引き出しがある。

こんなときは?

銀行、J A、郵便局、役所など馴染みの外出先があれば職員の見守り体制をとる。



- ・手続きの支援、お金の出し入れの際の注意、必要に応じて家族への連絡。「今日はどうされましたか?」「何かお手伝いしましょうか?」
- ・習慣的に見かける場所、時間を把握して、いつもと変化があれば気にかけて、必要に応じて連絡をする。

- 日頃見かける場所で最近見かけなくなった。
- いつもと様子が違う、なんとなく気になる行為がある。

こんなときは?

近隣の方 ➡

- ・この頃見かけないけどどうされたのかしら?
- ・あいさつ、声掛け
- ・行動、言動に不安がある場合の家族等への連絡、見守り



この他にも、私たちにできることはたくさんあります。